

資質向上のためのセルフチェックシート 【教諭】

所属		記入年月日	令和 年 月 日
氏名		記入年月日	令和 年 月 日

キャリア・ライフステージ	実践力の向上期
年齢・教職経験年数(目安)	28歳～32歳 ・ 6～10年
目指す教員像	複数の学校勤務の経験を通じて、教諭としての基盤を確立し、自らの実践を常に振り返りながら、職務遂行能力を向上させている。
岩手の基本研修	教職経験者5年研修(6年目)

資質向上に関する指標		自己評価	
		4～1を記入※	
		4月時点	〇月時点
1 教員としての素養			
自ら学び続ける意欲・探究心	①	・全ての児童生徒の可能性を引き出すため、「個別最適な学び」「協働的な学び」など「令和の日本型学校教育」を理解するとともに、時代や社会の変化、キャリア・ライフステージに応じて求められる資質を高めながら、自立的に学び、探究する姿勢を維持している。	
使命感、責任感、倫理観	②	・教員としての使命や責任、岩手の教育を担う一員であることを深く自覚し、教育への情熱と誇り、高い倫理観を持っている。また、岩手の未来を担う児童生徒の生命を尊重し、自ら、そして組織におけるコンプライアンスの徹底に取り組んでいる。	
教育的愛情、人権意識	③	・教育に携わる者として児童生徒に対する深い愛情を持ち、真剣に向き合っている。また、「子どもの権利条約」や「こども基本法」などの理念を踏まえ、人権尊重の意識を身に付けている。	
豊かな人間性	④	・豊かな人間性を持ち、社会人としての常識や幅広い教養を身に付けている。	
コミュニケーション力	⑤	・学校内外の様々な背景・価値観を持つ人々との対話を通して、円滑なコミュニケーションを図るとともに、チームとして課題解決に取り組むことの重要性を深く認識している。	
課題に立ち向かう力	⑥	・心身共に健康で、様々な状況でも感情をコントロールしながら、忍耐力とチャレンジ精神を持って、新たな教育課題を含む様々な課題解決に取り組んでいる。	
2 学習指導力			
カリキュラム・マネジメント	⑦	・教育課程の編成・実施・評価・改善の状況を踏まえ、学びの連続性や教科等横断的な視点を持って、学習指導を実践している。	
教科教育等の専門性	⑧	・各教科等に求められる資質・能力を明確に理解し、指導と評価の改善を図りながら、教材研究等を実践している。	
確かな学力を育む授業	⑨	・児童生徒の発達段階を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の観点から学習過程を構想するなど、学習者中心の授業となるよう改善を図っている。	
3 生徒指導力			
発達支持的生徒指導	⑩	・学級・学年・部活動など様々な場面において、多様性を踏まえた児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導の両面から発達支持的生徒指導を実践している。	
いじめ等の問題行動・不登校等への対応	⑪	・いじめ等の問題行動・不登校等の未然防止に努めるとともに、実践や研修等を通じながら発生時の対応スキルを身に付け、組織的に児童生徒の成長を支援している。	
教育相談	⑫	・実践や研修等を通してカウンセリングや教育相談に関する技法を身に付けるとともに、スクールカウンセラーや養護教諭と積極的な情報共有に努めている。	
4 マネジメント力			
学校組織における連携・協働	⑬	・分掌内の動きを見直し、同僚と協働して業務を推進しながら、分掌運営に必要なスキルを向上させている。	
危機管理	⑭	・危機的的確な予測や、危機を察知した際の迅速な対応を意識して行動している。	
関係者等との連携・協働	⑮	・保護者や地域など、関係者と良好な関係を築き、教育活動に生かしている。	
5 復興教育の視点			
	⑯	・地域の実情・課題に応じて、児童生徒が、様々な教科等での学びを通して地域や関係機関と積極的に関わりながら、震災の経験や教訓を学ぶ機会を設定するなど、復興教育を展開し、復興・発展を支える人づくりに取り組んでいる。	
6 キャリア教育の視点			
	⑰	・家庭、地域、企業、関係機関との関係を積極的に築きながら、キャリア教育を展開している。 ・児童生徒の主体的な進路選択に資するよう、ライフデザイン能力の育成を図っている。	
7 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への教育の視点			
特別支援教育	⑱	・教職員間の共通理解の促進や関係機関との連携・協働のもと、個別の指導計画に基づいた指導を行い、客観的な視点による評価を行いながら指導を改善している。	
多様性への配慮	⑲	・特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の特性等を理解し、多様性への配慮の視点を持ちながら、学習上・生活上の支援の工夫を行っている。	
8 ICTや情報・教育データの利活用の視点			
	⑳	・学校におけるICT活用の意義を理解し、授業や校務等での積極的・効果的な活用を図るとともに、児童生徒の情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための授業実践等を行っている。	
	㉑	・幅広く教育データを活用し、自らの指導の改善と、児童生徒の学習の改善を図ることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に取り組んでいる。	

※「自己評価」 4:よく当てはまる 3:どちらかというと当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない

自己の資質向上のために今後取り組みたい事項、伸ばしたい力等

